

目次

	ページ
第3回通常総会報告	1
第3回研究発表会報告	2・3
	4～6
	12
持続可能な社会づくり セミナー 「デザイン・ゲーム」の創始者 に学ぶ参加のまちづくり	7
	8
会員紹介	9
ホットコーナー	10
今後の活動計画	12
編集後記	12

日本都市計画学会中国四国支部 第3回通常総会  
(平成17年度)の報告

日時：2005年5月28日(土)13:20～13:50  
会場：広島市まちづくり市民交流プラザ  
マルチメディアスタジオ

会議の概要及び議決の結果

1 総会の成立報告

議決権を有する正会員219名中、本人出席39名、委任状による出席79名の合計118名出席があり、支部規定12条の「支部所属の正会員の1/5以上の出席」を満たしていることから、総会が成立する旨の報告がありました。

2 開会の挨拶

議事に先立ち、杉恵支部長の挨拶がありました。



杉恵支部長

3 議長選出等

支部規定の第7条により杉恵支部長が議長として選出され、佐藤幹事と松田幹事に議事録署名人としての承認を得ました。

4 議事

定時総会で承認された事項は以下の通りです。

1) 第1号議案 - 平成16年度事業報告



近藤副支部長

近藤副支部長が、会員及び役員の現状、会議、支部研究発表会、都市計画研究会、地域活動助成等の事業実績について説明し、拍手多数により承認されました。

2) 第2号議案 - 平成16年度収支決算書

佐藤幹事(総務委員長)が、平成16年度収支決算について説明し、続いて今田監査役から収支決算に対する監査報告があり、拍手多数により承認されました。



佐藤総務委員長

3) 第3号議案 - 平成17年度事業計画・収支予算

松波副支部長及び高井幹事(学術委員会委員長)が、平成17年度事業計画(案)について説明。引き続き松波副支部長が収支予算書(案)について説明。拍手多数により原案通り承認されました。



松波副支部長



高井学術委員長

<平成17年度事業計画>

支部研究発表会の開催、都市計画研究講演集3の発行  
都市計画研究会の開催：メインテーマは「景観」として3回開催。  
次年度テーマ候補を「路面電車」として1回開催。  
特別講演会(柏谷増男氏)・シンポジウム・講習会、見学会等  
特別企画 景観フォーラム  
地域活動助成

総務活動：ホームページの管理、ニュースレターの発行等

<平成17年度収支予算書>

予算額：1,092,168円(収入合計)

4) その他

杉恵議長(支部長)より、学会本部の理事会での協議内容(会員名簿、理事の構成など)について、報告がありました。

(文責：山下和也)

## 招待講演

日時:2005年5月28日(土)

会場:法華クラブ

### 居住政策の観点から見た町並み保存地区の課題

間野 博(広島県立大学 教授)

伝統的建造物群保存地区(以下伝建地区)の居住政策はストック時代の居住政策の基本であるとの観点から、日本と英国の歴史的町並みの居住者意識等を比較しながら、住宅政策から見た町並み保存地区の課題が提言された。



<講演の概要>

#### 1. 居住政策の観点の必要性

歴史的町並みの大部分は居住地である。日本の伝建地区の多くは、若者の流出、空き家の増加が顕在化しており、優れた景観を保全する観点からも伝建地区の居住政策が必要である。

#### 2. 英国における町並み保存地区の居住者意識

英国バーミンガム市郊外のポーンビル(チョコレート会社の経営者が工場と労働者住宅をセットで作った「工業村」:田園都市の雛形)と広島県竹原市竹原地区(江戸時代製塩業で栄えた商家群)を比較し、ポーンビルの町並み保存が「うまくいっている理由」について紹介された。

表 ポーンビルと竹原地区の居住者意識等の比較

項目	ポーンビル	竹原地区
居住者年齢	60歳以上が4割 30代~80代まで多様な居住者層	60歳以上が7割 高齢化が進行
居住暦	ここ10年間に移住(転入)が42%で最多(生来はほとんどいない) =入れ替わりが活発	生来が32%で最多 =入れ替わりが少ない
現住宅選択	住み心地良さが最多(他にも多くの積極的な理由が見られる)	親の家だからが最多(住み心地よさは皆無、その他にも積極的な理由は少ない)
町並み保存	誇りに思うが79%(若い人ほど評価が高い)	誇りに思うが36%(若い人ほど評価が低い)

講演資料をもとに佐伯作成

#### 3. 町並み保存地区の住宅の住みづらさの正体

竹原地区では、台所、浴室、便所の水周りは意外と改造が進み、不満より満足の方が多い。明治期の住宅は50%がシステムキッチンである。台所は、暗さ、寒さ、日当たりなどの室内環境に関する不満が高い。便所は汲み取り式が多く、このことに対する不満と、暗い、寒い、遠いなどの不満が多い。

間取りその他に関しては、満足より不満が多い。土間が残っている住宅が67%、部屋の仕切りに壁がなく、襖や障子のみで仕切られた住宅が半数近くを占める。この結果、間取りの自由度に対する満足度が高いが、固定されていないことに対する不満も多い。その他、家全体では、階段が急、隙間風が入る、暗くて陰気な雰囲気などへの不満度が高い。また、世代、家族構成、居住暦等によって住宅に対する評価が異なり、一貫した居住観が見られない。

#### 4. 権利移動の影響

竹原地区の土地と建物の権利移転原因は、売買42.5%、相続39%、贈与12.5%、その他18.5%である。

住宅を相続した人に比べて売買取得者の方が伝建地区を誇りに思っている人の割合が少なく、定住意向も低い。英国ポーンビルが新住民も積極的に評価しているのと決定的な違いである。

#### 5. まとめ(課題)

外観を残しながら内部を改装し、住み心地を良くする必要があるが、費用に見合う需要があるかが課題。

新しい居住観の形成に向けて、コミュニティーぐるみの議論が必要。

意識の高い新権利取得者を呼び込む魅力づくり。

これらのことは、伝建地区だけのことではなく、ストック時代の居住政策の基本となるものではないか。

<感想>

竹原地区のデータは、間野研究室で独自に実施された調査に基づくものであるが、日本の伝建地区の現状を総じて代弁しているような印象を受けた。

英国ポーンビルについては、文献を引用しながらご自身の英国滞在のご経験を踏まえ、町並み保存がうまくいっている背景等をご紹介頂いた。左の表からも分るとおり、何れの項目もポーンビルと竹原では随分異なることに、改めて驚きを禁じえない。日本の伝建地区では、町並み景観を保存するための補助金が支給されるが、英国では補助がない、といった説明も加味すれば、双方のギャップを埋めることは相当困難なことと思わざるを得ない。

まとめとして上げられた3つの課題は、何れも日本人の価値観やライフスタイルと深く関るものであり、まさに日本人の居住観の再構築を迫るものといえる。講演の中で、英国では自給自足のライフスタイルが根底にあり、庭に必ず菜園を作る、といった趣旨のご指摘があった。竹原地区の評価が世代、その他によってまちまちであることと大きな相違点である。

伝建地区制度や景観法が施行され、都市計画においても景観づくりが益々重要な課題となっており、その意義についても様々に語られている。しかし、その一方で、地元自治体や関係権利者から、その具体的なメリットが見出せないこともしばしば指摘されている。間野先生がご指摘の3つの課題を突き詰めることで、その答えが徐々に見えてくるような気がしてならない。

(文責:佐伯達郎)

## 地方行政の改革と都市計画における課題

戸田 常一(広島大学大学院社会科学研究科教授)

経済成長の鈍化や経済がグローバル化する中で、社会保障、雇用問題、治安や防災確保、環境重視など新たな都市問題が発生している。このような状況のもと、都市計画のアプローチは抜本的な見直しが必要かを講演の論点としたい。



< 講演の概要 >

### 1. わが国戦後経済成長と都市計画

都市計画法が制定された1968年頃は、わが国の高度経済成長がピークを迎え、地方圏から大都市圏への人口移動が顕著だった。これにより都市が無秩序に拡大し、上下水道や教育施設など基本施設の整備の遅れなど様々な問題が発生した。

都市計画法はこのような時期に制定されたため、一定の目的達成のための制度措置を定めた行政計画の色彩を色濃くもったものであった。

経済学では、市場原理に委ねては効率的な資源配分や公平な所得分配が期待できないために、政府は 外部経済・不経済効果の存在、収穫逦減、公共財、情報の非対称性、所得分配上の考慮、という5つの事項に関与すべきとしている。都市計画はこれらのために必要とされてきたが、これらは経済成長によって人口や産業の都市集中が急速に生じたことによる固有の事象であり、これまでの規制措置や事業展開が今後も同様なレベルで必要かどうか検討する必要がある。

### 2. 経済社会の情勢変化と都市の問題の変容

#### (1) 経済のアウトバウンド面におけるグローバル化・ソフト化と都市経済格差の拡大

わが国の地方都市は基幹的な工場立地により経済が支えられてきたところが多いが、最近では企業のグローバル化で苦戦を強いられている。このような時代では、高次の価値が生産できる都市とそれ以外の都市や地域との成長格差が拡大する。頭脳労働を担う人が好んで住み、より高次の創造活動に参加できる都市が益々重要となる。

#### (2) インバウンド面における都市の国際化の遅れ

わが国の外国人の訪問・居住への対応は限られており、特に地方都市で遅れている。欧米諸国と比較しても、わが国の都市計画にはこうした社会問題への対応という色彩は薄く、その対応が求められる。

#### (3) 都心の商業集積の低下や人口減少・高齢化

商業集積を都市周辺に立地させる一方で、都心の商業

集積や商店街の疲弊などに対する擁護策が講じられるなど、都市圏整備の統一した方向性が見られない。都市圏の視点を明確にする必要がある。

#### (4) 少子・高齢化が都市に与える影響

高齢者は一定年齢以上になると商業や医療機関が集積する都心に集まることが予想される。これにより郊外団地の空洞化が予想され、その対応が必要である。

#### (5) 都市基盤の老朽化と国・自治体財政の逼迫化

都心の多くの民間ストックや社会資本が更新時期を迎えるが、新たな投資余力は大きくない。都心を再生するのか、周辺の新たな副次拠点に機能配置するのか、都市の根本的な課題である。

### 3. 地方分権化の推進と都市計画行政

「基礎自治体優先の原則」及び「補完性の原理」に基づく都市計画法の改正により、都市計画決定等の事務の自治事務化、市町村都市計画審議会の法定化の措置が講じられた。都市計画をより住民に近い市町村に委ねることは地方分権の流れに沿ったものであるが、合併後の都市計画マスタープランの見直しなど未だ課題は数多い。

また都道府県の再編による広域的な行政体が検討されているが、都市計画区域のマスタープランの位置付け、策定主体などが課題となる。行政再編と都市計画制度の整合性を含めて議論していく必要がある。

### 4. 都市計画に必要な新たなアプローチ

これらを踏まえて、望ましい都市づくりを進めるためのアプローチとして二点を提案する。

(提案1)市町村に都市計画の事務事業が移管されることで市町村の肥大化が進んでは当初のねらいから逆行する。事務事業の中には住民やNPO等の関係団体に移管することでスリム化が実現できる。そのためには住民や関係団体も問題意識を鮮明にし、行政に対して逆提案できるような専門性の涵養が重要である。

(提案2)都市計画プランナーの社会的地位が高まり、行政とも対等な立場と責任を持って都市計画の策定と実現に参加することを期待する。またこれらの組織間において人材の流動化を進めることは魅力ある都市づくりに有効な方途と考える。

#### 感想

わが国の経済が衰退期にある中、都市計画もそれぞれの都市に応じたある意味で身の丈にあった変容が求められるのであろう。そのためには地域を熟知し愛着ある市民が、まずは都市計画行政への関心と意識を高め、真剣に議論していく必要がある。広島では市民球場の話題が盛んであるが、市民がまちづくりに触れる好機ともいえよう。この講演を通じて、我々、都市計画プランナーも役割と責任をもって市民と対話していく必要性を強く感じた。

(文責：周藤浩司)

### 第3回中国四国支部研究発表会報告

日時:2005年5月28日(土)

会場:広島市まちづくり市民交流プラザ

#### 「地方都市郊外部における市街化シミュレーションモデルの開発」

渡辺 公次郎(徳島大学大学院工学研究科 助手)

近年スプロール化している徳島市周辺部を対象に、100m×100mのメッシュに分割し、そこに含まれる人口データを分析し、セルオートマトンを用いて、市街化を予測するモデルを開発したものである。



シミュレーションにより、スプロール化が進んだ藍住町において、市街化調整区域に指定していたら、スプロール化はしなかったという結果が出た。

また、質疑応答では、

Q ; 川までの距離を設定したのはなぜか。

A ; 川に近いと水害があり、住みたくない。

Q ; 駅から離れているのに人口が増えているのはなぜか。

A ; 理由は導きだせなかった。

Q ; 線引きの見直しによる影響はどうか。

A ; 大規模な線引きの変更はなく、区画整理もないため、結果が出せなかった。

Q ; 大規模店による影響はあったか。

A ; 設定したセルの中に大規模店はなかった。

などのやりとりがなされた。

今後、土地利用を予測したモデルを開発する予定であるそうだが、今回のモデルも含め、活用することによって、より良い都市の形成が行われていくことが望まれる。

#### 「国勢調査メッシュデータによる広島都市圏の人口移動の分析」

奥村 誠(広島大学大学院工学研究科 助教授)

広島都市圏において1980年から2000年まで5年おきの国勢調査500mメッシュを活用して人口移動の傾向を把握したものである。



さらに、年齢階層の異なる人々が単位ごとに移動した社会移動による移動数の計算値からいくつかの世帯ライフステージを抽出し、ライフステージごとの移動傾向を整理したものである。

ライフステージは「学齢期の子供を持つ世帯の移動に関する因子」(学齢期)、「長子の誕生に伴う世帯の移動に関する因子」(長子誕生)、「高齢者の移動に関する因子」(高齢

者)、「壮年者を中心とした世帯の移動に関する因子」(壮年者)、「単身者の移動に関する因子」(単身者)の5つに分けられた。地域環境特性と魅力の関連性を分析した結果、単身者のみが地価の高い地域に移動する傾向があった。また、住宅の広さに関しては、「学齢期」、「単身者」において重要視する傾向があった。

住宅タイプでは「長子誕生」、「学齢期」とライフステージが変化するにつれ、借家から一戸建ての多い地域を志向する傾向が強くなり、特に「壮年層」において最も強くなる結果となった。

また、以下のような質疑応答がなされた。

Q ; 将来、10年、20年でパターンが変わるがどのように考えたら良いか。

A ; 将来は少子高齢化により、因子や年齢層によって変わってくると考えられる。

今後も国勢調査の度に人口移動の分析を行うことにより、少子高齢化による影響がどのような形で出るか期待したい。

#### 「都市公園の配置と公園周辺人口環境に関する研究」

塩出 興二(広島大学大学院社会研究科博士課程)

広島市の住宅団地における都市公園の配置に対する検討を行い、それに評価を与える。さらに完成した年代にしたがった住宅団地の人口形態の分析を行い、将来の公園周辺環境を類推することが可能か検討するものである。



分析結果として、公園の誘致圏が住宅団地を100%カバーしていない、住民の利用を考慮しない周辺部に配置される傾向がある、十分な面積が確保されていない等、課題が多い結果となった。

また、人口構成は古い団地ほど、高齢者、1人~2人の世帯が多くなり、幼児が少ない等、持ち家の多い住宅団地はそのまま住み続けるという傾向がそのまま結果に出た。

また、以下のような質疑応答がなされた。

Q ; 13団地に絞ったのはなぜか。

A ; 町丁目の中に入り、業者の開発した団地に絞ったため、そうなった。今後、区画整理の団地も研究したい。

今回の研究では都市公園と人口構成とのつながりがあまり明確に見えなかったように感じたが、今後、研究者が公園の利用と維持管理の面から、周辺人口環境と、公園の形式・設備とが的確にフィットしているのかを重要なテーマとして研究を進めていきたいとしており、今後の研究の進展を期待したい。

( ~ 文責: 隅田誠)

### 「東広島市における住居地域の生活環境評価に関する基礎的研究」～難波義郎(近畿大学工学部 教授)

本研究は東広島市の土地区画整理事業が行われた西条第1地区、高美が丘ニュータウン、八本松原地区の生活環境評価をヒアリング調査と階層分析法(AHP)により総合評価した



ものである。総合評価満足度5点満点で、高美が丘ニュータウンが3.3点で最も高く、八本松町原地区2.8点、西条第一地区2.6点であった。西条第一地区は他の2地区に比較し利便性が高いと思われるが、住民の生活環境評価は異なっていることが確認できたと報告された。またAHPを用いた分析では治安や風紀、上水道の状態、交通事故・災害からの安全さ、高齢化の動向が考えられているかの4つの要素が快適に生活して行くための要素として重要視されていると報告された。

調査のサンプル数に関する質問がなされたり、西条第一地区でのヒアリング調査での道路整備に関する要望が高い点や防犯意識の高さ、防災意識の低さに関して同意する発言があった。また安心して安全な道路を利用できるという回答が52%と低い要因に大学生の自動車運転を指摘する意見もあった。

計画的な市街地整備が行われた住居地域での生活環境の総合評価満足度が異なることが客観的に説明されており、必ずしも生活利便施設が地区内に立地していることが満足度を高めることになっていないという指摘と、結局はそこに住む人々のモラルが生活環境の向上につながるという指摘にまちづくりの難しさを感じました。今後、調査地域を増やした検討が予定されており、研究の進展が期待されます。

### 「ギャップモデルによる都市サービスの質の評価」

張 峻屹(広島大学大学院国際協力研究科 助教授)

本研究は都市サービスの質に関して、マーケティング・サイエンスの分野で提案されているギャップモデルを用いて、実証的に分析がなされたものである。分析は東広島市の住民1,654人の住環境、学習環境、就業環境、ショッピング・レジャー環境、市内交通環境、広島市との交流環境、都市間交流環境の質に関する主観的評価に関する調査データに基づ



いている。そして調査データの評価方法として、Parasuramanらの評価方法を問題を解消した次に示す方法が提案された。

・提案された評価方法 = 「(期待度 - 満足度) × 期待度」

この方法により、東広島市の質が低いと評価される都市サービスは、歩行環境、広島市内での駐車場のやすさ、道路の走行のやすさ、新幹線と空港へのアクセス、交通機関や施設のバリアフリー化、文化芸術活動への触れ合い機

会等が確認できたと報告された。

ギャップモデルの構造に関する質問がなされ、提供者と消費者に区分して、どこにギャップが存在するかを模式的に示したギャップモデルの概念図による説明が行われた。また、実際に使用されたモデル式の目的変数と説明変数の関係も提示されどのように調査データが処理されたかの説明も質疑応答の中で行われた。

都市サービス評価、行政サービス評価、居住環境評価等に関するアンケート調査等の調査・分析に関する新しい方法論の提示であり、住民参加によるまちづくりが求められている中で、どのような施策をまちづくりの重点とすべきかをギャップという概念で、客観的に把握、説明できる新しいモデルではないかと考えられます。今後の研究の進展が期待されます。

### 「中国地方における建築行政の現状に関する研究(市町村合併・権限移譲などの影響調査)」～北本拓也(広島県)

地方分権一括法、合併特別法の施行により、「平成の大合併」が進行する中で、建築行政に影響を及ぼしていると考えられる自治事務化、確認検査事務の民間開放、市町村合併、権限移譲等の実態を行政担当者への意識調査を実施することにより把握を行ったものである。



自治事務化に関しては自治体毎の異なる制度制定という変化とプラスマイナスの両面の影響の存在が把握されている。確認検査事務の民間開放では民間への申請数の移動が確認されている。市町村合併の影響では守備範囲が広がったにもかかわらず担当職員数の増加などに結びついていない実態が把握されている。権限移譲に関してはその必要性は都市規模にかかわらず同じであるが実際は大きい都市へ多くの権限が移譲されている実態が把握された。

地方分権、市町村合併は、住民により身近な建築行政の展開を促進する枠組みを提供してはいるものの、行政担当者の意識調査では一方的に歓迎する結果になっていない実情が把握された。一方、今後の取り組みに関しては多くの行政担当者が合併や権限移譲を契機にまちづくりへの取り組み意思を示しており、意識が向上している事実も確認された。

行政担当者への意識調査の調査対象や調査内容等に関する質問があり、発表者からの補足説明が行われ、また市町村合併と県行政の関わりについても真剣な質疑が行われた。

地方分権とそれを促進させる市町村合併が、建築行政にどのような影響を実際に与えているかというテーマに関する貴重な研究報告を聞くことができました。今後は自治事務化、確認検査事務の民間開放、市町村合併、権限移譲が進む中で建築行政のみならず、多くの行政サービスが我われの身近なものになってゆくことが期待されます。

( ~ 文責：安永洋一郎)

### 「民有地と公有地の公開利用に関する研究」～広島市を事例として 中川啓司(広島大学大学院工学研究科 学生)

広島市を対象として都市にオープンスペースを供給する総合設計制度において、民有地でありながら半公共的な空間を創出する公開空地に着目し、その整備状況や利用実態を把握



し、今後さらに都市環境の整備に寄与することを目的とします。公開空地は、緩和を受けるため必要最低用件の範囲であり、今後は、公開空地の利用用途を明確にする協議型の総合設計制度の運用について考える必要がある。

Q；公開空地はどのような利用があるか、広島市の事例で特徴的なものを教えてください。

A；まず、京橋川沿いのホテルのオープンカフェが特徴的で民間事業者が公有地である河岸緑地と一体的な整備を行っている。ハード面とソフト面の緩和用件として設定され、公共空間利用の新たな可能性が示された。また、相生通り西側のビルMの公開空地は地下1階の位置にあり、地下街シャレオの出入り口としてよく利用されている。また、相生通りの東側の連続したビルHとビルMの歩道側の公開空地は歩道を広げるだけにとどまり不明瞭である。また、同じく連続したビルIとビルNも歩道を広く取った公開空地で不明瞭となっており、二つのビルの間には大きな看板があり市民の利用を阻害している。

都市におけるオープンスペースである公園緑地と公開空地に着目し、特に公開空地については具体的に調査、分析されており興味深かった。今後とも、公開空地の重要性から内容を充実して、都市緑地とのネットワークの必要性を感じました。

### 「北海道札幌近郊手稲地区における広島開墾・広島通りの形成と変容に関する研究」

石丸紀興(広島国際大学社会環境科学部 教授)

北広島市とは別に、明治18年に、手稲村西野にも広島県から入植した人たちがいたことはあまり知られていない。この研究は、この広島開墾の実態を掘り起こし、記録し、何らかの参考情報となるよう意図したものである。



西野は、比較的整然とした区画割がなされたこと、開拓には畑作が馴染みやすいが、西野では取替えて水路を開墾して水田とし、農業用地としたが結局は大都市の郊外となり、住宅地の役割が大きくなって開墾地の農業生産地としての役割を終えた。その後、土地所有者は、農業生産から不動産経営、社会福祉施設の運営、社会的な活動へと進出し新たな役割を果たしています。

Q；屯田兵は広島とのつながりがあったのですか。また開拓民への仕送りはあったのですか。

A；ここは屯田兵でなく一般開拓民です。自分達で資産、一族を拡大して、仕送りをしたというのは聞いていません。

Q；手稲地区は、北広島市との交流はあったのですか

A；理寛寺さんは、和田さんについていって、ここで一緒になったが、交流については聞いていません。ささやかでこじんまりとした集落を形成していたと思われ、具体的にはわかりません。

Q；南条通りは、直線の道路ですが小規模でも最初からあったのですか。

A；圃場整備してこうなったかわからないが、最初から直線であったと推測されます。

広島からの開拓民については知っていましたが、手稲地区にも入植していたとは知りませんでした。入植当時の氏名、開拓から現代までの変遷が系統的に調査して示されているので、貴重な研究成果だと思います。

### 「定期借地権を導入したまちづくりの成功例について」

馬場 勉(馬場総合鑑定所)

分譲事業が完売したことを記念してコネクターに岡山大学副学長を迎え4人のパネラーにより「官民一体による宅地分譲事業のモデル的手法」と題してシンポジウムを開催しました。分譲は、NPO、岡山市、メーカーが一体となっ



て開発したものである。地区計画は最初から作り、塀、家の建て方、セッパックについて決めています。

市町村は売れない土地を多く持っており、県住宅公社の土地も市町村に無料で渡し、固定資産税の権限を市町村が持ち、定期借地権により市民に貸して市民税、資産税を確保すると人口が増えてまちづくりの活性化に結びつきます。

Q；ゴミ置き場の権利状況はどうなっていますか。また、集会所の建設資金はどう集めたのですか。

A；資金は、住民から集めましたが土地は無料です。建築はバスターでプロセッサを行った。土地、建物の所有権は、代表が個人の名で登録しています。法人化していないし、NPOもできていない。ゴミ置き場は市が持っているが今後町内会に委譲するかもしれません。市は全部渡したい考えです。

Q；定期借地は、今後人口が伸びなくてだぶついてきます。住宅の需要が小さく、将来とも普及しないのでありませんか。中国地方で伸びているのですか。

A；定期借地は、全国的にあまり伸びていません。岡山市は、工業団地を貸してくれ、固定資産税は取らないが従業員を雇用してくださいということで成功した。定期借地は、借りればよい人が結構多く、所有から利用にもっていくことで回転し、土地の値段が高いからではありません。日本人は土地建物の所有に強い気持ちを持っており賃貸については弱いと思っています。

都市及び都市近郊部には、公共施設用地、工場団地造成などの多くの公共空地があります。「借りる」という概念で、安く住居が手に入る「まちの活性化」が望まれます。

( ~ 文責：上之博文)

## 持続可能な社会づくりセミナー

### オスロと広島を事例に

日時：2005年5月23日(月)13:30～16:30

会場：広島大学東千田キャンパス大講義室  
(広島市中区東千田町)

主催：地域経済研究推進協議会  
社団法人中国地方総合研究センター  
スカンジナビア政府観光局業務視察部

共催：広島市  
広島大学地域経済システム研究センター

後援：日本計画行政学会中国支部  
日本都市計画学会中国四国支部  
中国経済連合会

#### 基調報告：

「オスロ市の持続可能な社会づくりに向けた取り組み」  
スカンジナビア政府観光局業務視察部  
オスロ市環境・交通局環境政策コーディネーター  
グットム・グルント氏



#### 内容

この度、スカンジナビア政府観光局業務視察部などの主催で、早くから環境問題に取り組んでいるノルウェーのオスロ市の取り組みについて担当者から直接話を聞ける機会を得た。京都議定書が発効し、持続可能な社会づくりに向けた取り組みが急務になっていることもあり、会場には約90人の参加者が集まり、講師のグルント氏の話に聞き入った。



(グットム・グルント氏)

グルント氏の報告の前に、スカンジナビア政府観光局からノルウェーとオスロの紹介があった。ノルウェーは、「持続可能な発展」というビジョンを掲げ、炭素税の導入などをいち早く実施しており、また、地方分権化が進んでいるため、ビジョンを実現するために自治体は中心的な役割を担っている。首都オスロ市は、市の面積の約3分の2が森

や緑地、湖、海で占められており、フィヨルドの「ブルー」と森の「グリーン」に囲まれた「ブルー&グリーンシティ」であり、地域産業における環境対策の奨励、市民参加型の啓発活動、環境共生型のまちづくりなど、ユニークな取り組みを行っており、「ヨーロッパ持続可能な都市賞」も受賞しているとのことであった。

また、「中央の権力は、地方組織が効率的に果たせない機能だけを補完する」という補完性原則に基づき、都市機能の重要な部分を人口2～4万人程度の「地区」へ委譲しており、市内に15ある地区には、それぞれ地区議会を設け、そこが市議会に代わって地区を統治しているとのことであった。

さて、以下ではグルント氏が講演で紹介した3つの事業について紹介する。

#### エコ・ライトハウス(Eco-Lighthouse)

ノルウェーで生まれた中小規模の団体・企業向けの環境認証プログラムである。新しいことに取り組みやすい規模の小さい中小企業を対象として、自治体が助成金を出し、環境対策の成功モデルを作るプログラムで、企業は助成金をもらってプログラムを実施するかわりに同業他社に成功ノウハウを提供することになっている。

#### トールリング(Toll Ring)

市内に入る車から通行税を徴収することで、市内の交通量を約10%減少させ、通行税は地下鉄の拡充費用に充てている。導入の際には市民の7割が反対していたが、実際に導入すると、騒音や公害の減少、交通量の減少など市民が成果を目の当たりにすることによって賛成する市民が増えてきている。

#### フィヨルドシティ(Fjord City)

港湾部の造船施設が郊外に移転するのを機に、都心のウォーターフロントの再開発を実施しており、ビジネス、住居、文化施設(ノーベル平和賞博物館、国立オペラハウス)などを建設することにより、オスロ港への企業誘致による経済効果とともに、住民に質の高い生活空間の提供を目指している。



(トールリング)

同時通訳によりオスロ市の具体的なプロジェクトを直接聞くことができ、広島の事例紹介、質疑応答により理解の深まりもあった、参加者にとって非常に有意義なセミナーとなった。  
(文責：吉原俊朗)

## 「デザイン・ゲーム」の創始者に学ぶ参加のまちづくり

日時：平成17年5月29日(日) 13:00~17:00

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

住民とともに考えるまちづくりの先駆者であるアメリカの建築家ヘンリー・サノフ氏を招き、コミュニティ・デザインのあり方についてご講演いただいた。(参加人数：約80人)

### 1. ケーススタディ(日本の事例報告)

(1) **まちのデザイン**：『水の都大作戦 「水の都 ひろしま」構想における市民参画』/事例報告者 氏原睦子氏(地域環境創造・活用プロデューサー)

「水の都 ひろしま」構想を国・県・市が共同で作成されている。この構想を作るにあたり、市民参加で計画を行なっていったプロセスを紹介する。

水の都として川とどう関わっていくか、どう活用していくかについて考えていくために、「市民ワークショップ」と「水の都大作戦」を行なった。市民ワークショップの大きな目的は『広島を名実ともに「水の都」にしよう!』というものである。市民ワークショップは 水の都ウォーク(発見) なるほど水の都(提案) 水の都作戦会議(方法)

水の都をはじめよう(連携)と4段階のプロセスで行った。

ワークショップを行ったことにより、市民の意識は高まった。「水の都大作戦」は、水辺の



コンサート、水辺で冠婚葬祭、水辺を飾るベランダ緑化、水上タクシー、シンボルデザイン、川で洗濯など、すぐにはじめられる活動からプロジェクトは進行中である。

(2) **建築のデザイン**：『呉市音戸町波多見コミュニティセンター 住民参加の公共建設事例』/事例報告者 下田卓夫(まちづくり建築家)

呉市音戸町波多見地区のコミュニティ施設を、鉄筋コンクリート造で建設委員会が検討を行っていた。しかし、建設予定地が海のそばの埋め立て地であり、杭打ち工事による近隣住宅の地盤沈下への影響や不安、海が見えなくなるなど既存景観が失われる等の問題が生じた。この解決策として、「施設の木造化と住民参加で計画策定を提案」し、計画づくりをワークショップ形式で行った。

住民参加で行ったことにより、完成後の維持管理・運営は他の地域とは異なり、ペンキ塗り等の補修、部分的な改修等は地域の人の手によって計画的に進められている。広場やデッキなども手入れされており、地域の集いの場となっている。

(3) **公的サポート**：『広島市まちづくり市民交流プラザ』/事例報告者 山本瑩子氏(広島市まちづくり市民交流プラザ館長)

広島市まち作り市民交流プラザは、平成14年5月11日

にオープンし、今年で3周年を迎えた。プラザの設置目的は、「生涯学習及び、市民活動の支援を行うことにより市民の交流とまちづくりへの参画を促進する」ということであり、90万人もの人が利用している。このような資源を持ち、広島市まちづくり市民交流プラザは今後もまちづくり活動を応援していきたい。

### 2. 講演+広島のまちづくりへのメッセージ/サノフ氏

民主主義については様々な議論がされている。イラクやアフガンでも投票をしたからということで民主主義といわれてきた。しかし、投票は民主主義ではない。民主主義とは、決定するプロセスに参加する事である。参加の目的は民主主義であり、全ての段階において参加しなければ民主主義でない。

参加のプロセスにおいて重要なことは、誰が参加に関わるか(影響を及ぼす人、影響を受ける人) どの部分において関わるか(情報を与える、情報を得る) 参加する事によりどこに影響を与えるか(実行、目的達成、評価)である。参加によって何らかの成果が見られないと続けることは困難である。

まず、日本の事例として、七尾のレクリエーション・レジヤの場づくり、宇都宮のまち再生を、アメリカの事例として、ミネソタの高校のマスタープランづくり、ケンタッキー川辺の整備、ニューメキシコの学校改修を紹介した。



### 3. 質疑

専門家からみて、現在よくとも、将来の地域にとってよくないものが合意された場合はどのすればよいのか。

全ての提案が受け入れられる訳ではない。しかし、市民の中で合意がなされたのだから、どこか受け入れられているものである。

ワークショップを行っていくうちに大幅に条件に当てはまらなくなりそうな場合、どのようにするのか。

ワークショップを行っていくうちに条件はよく変わる事である。1番大切なことは何なのか、優先順位をつけることが重要である。

影響を受けると考えられる人が1000人いるなど、大きな町で参加を行う場合はどのようにすればよいのか。

アーバンデザインというものは信じていない。対象範囲が広ければ、市民一人一人の意見が反映されにくくなる。そのため、大きな問題を小さな問題に分解する。

なぜ、『デザイン・ゲーム』なのか。

「ゲーム」ということは「FUN(楽しい)」なのである。楽しいから参加するという事ではなければならない。

(文責：宮本茂)



## 会員紹介

阿部宏史(あべひろふみ)

岡山大学大学院環境学研究所

資源循環学専攻教授

1955年 徳島市生まれ / 京都大学工学部土木工学科卒業 / 京都大学大学院工学研究修士課程修了 / 1981年 京都大学工学部助手 / 1988年 岡山大学工学部土木工学科助教授, 環境理工学部環境デザイン工学科助教授, 同教授を経て, 2005年4月より現職 / 広島大学大学院社会科学研究所附属地域経済システム研究センター客員研究員, 岡山県事業評価監視委員会, 岡山市総合政策審議会, 岡山市都市計画審議会の各委員など



### 1. 岡山大学について

岡山大学には1987年8月に着任し, 現在までの約18年間に, 大学の改組に伴って, 工学部土木工学科, 環境理工学部環境デザイン工学科, 大学院環境学研究所と所属が変わりました。そして, 組織名称の変化の通り, 教育・研究内容が土木から環境に徐々に変化しています。特に, 岡山大学では, 環境理工学部が中心となって企画した「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」が2003年度の21世紀COEプログラムに採択され, 大学院環境学研究所が新設されるなど, 「環境」色がますます強まる傾向にあります。

### 2. 研究活動と地域連携

研究活動は, (1)国土・地域計画, (2)都市計画・交通計画, (3)環境計画のそれぞれに関するテーマを平行して進めています。

(1)については, 地域間の経済格差, 人口移動, 地域間交流などが主な課題であり, 特に長期間の



「都心での市民ワークショップ」地域統計データを使用した実証分析に興味があります。

(2)については, 地方都市の中心市街地再生を共通テーマとして, 都心交通の改善策, 事業所立地, 買い物行動などについて研究しています。また, これまで行政機関, 商工会議所, 市民団体と協力しながら, アンケート調査, 市民ワークショップ, 交通社会実験などを実施してきました。

(3)は, 環境分析への地域産業連関モデルの応用が中心テーマです。最近は大学の「環境」シフトに合わせて, この研究に力を入れています。

以上, 詳しくは, 研究室HP (<http://www.civil.okayama-u.ac.jp/~regional/regional.html>) をご覧下さい。

### 3. 岡山市のPR

岡山市は交通の便に恵まれた都市ですが, 印象が希薄で, 通過点の街と言われてきました。しかし最近では, 今年秋の国体に向けたインフラ整備, 駅周辺の再整備, 都心小学校跡地の利用など, 様々な動きがあります。岡山のまちづくりについて, 支部会員皆様のご意見をお待ちしています。

## 会員紹介

澤田俊明(さわたとしあき)

(有)環境とまちづくり

771-4501 徳島県上勝町大字福原字川北30番地

TEL 088854-4-6290

棚田のまち・徳島県上勝町から



### 上勝町での活動開始

2001年春先にそれまでつとめた会社を退社し, 人口2100名・高齢化率45%の徳島県上勝町で, スタッフ3名の小さなまちづくり会社を設立しました。「環境とまちづくり」という名前の組織で, その名のとおり, 「環境」と「まちづくり」に関するプランづくりやデザインづくりの活動を行っています。

### 活動の拠点

2001年正月に, 知人の建築家S氏より廃校になった旧上勝福原小学校を住宅・事務所に再整備した真っ赤な年賀状が届きました。はじめて, 廃校であったこの場所を訪れた時, 事務所, そして周辺の環境のすばらしさに, 圧倒されました。窓を開ければ, 心地よい勝浦川支流のせせらぎの音, 背後の圧倒的な緑, 鳥の鳴き声, 鮮度100%の空気, 近くの温泉, 安い賃貸料……。

現在の「環境とまちづくり」は, この廃校を活用した旧福原小学校の事務所を拠点としています。マイナスイオンカウンターで事務所内を計測すると4000個前後のマイナスイオンの中で仕事をしています。

### 活動の概要

「環境とまちづくり」では, 【まちづくり計画】【地域環境調査】【地域学習】【空間デザイン】などの活動・業務を行っています。



2005年棚田オーナー(上勝町)

### 上勝町での活動

- ・ 上勝町住宅マスタープラン策定・推進
- ・ 棚田オーナー制度, ワーキングホリデー制度の企画立案・支援
- ・ ヤッホー調査, 茶摘み体験などの自然体験活動
- ・ 参加型里山芸術活動企画・支援

### プロフィール

1954年愛媛県宇和島市出身 技術士(建設部門, 都市及び地方計画) 博士(工学) 徳島大学・阿南高専(非常勤講師) (有)環境とまちづくり・主席研究員, 日本建設コンサルタント・技師長, 「NPO法人・港まちづくりファクトリー」-小松島・理事, 「NPO法人・コモンズ」副代表理事 ヤマビコ認定士1級・ほら吹き2級, 上勝町「榎原の棚田村」事務局 滋賀県「PI」と合意形成・交渉力」研修講師(H15, H16), 国土交通省港湾局(本省)「みなとまちづくり研修」講師(H15, H16), 国交省四国地整・河川環境研修講師(H16, H17), 徳島市消防局・自主防災組織総合アドバイザー(H16) 主体的な参加のデザインの視点から, まちづくり・自然体験・棚田保全・水辺空間利用等の分野での, 多面的な実践活動のほか, 成熟社会での新たな公共空間像を目指した合意形成支援活動に積極的に参画している。

## ホットコーナー

タイ報告・・・・・・・・編集委員 福馬晶子

何気なく旅費と割ける時間から、インターネットで旅行先をタイと決めるところから旅は始まった。7泊8日53000円(ゴールデンウィーク)!!まだ行ったことのない空間に心が躍る。

### タイ概要

タイは、開空から6時間弱と結構気楽に行ける外国のひとつで、今年のゴールデンウィークの海外旅行者の28%を占めたほど人気の気楽な外国だ。これを読んでおられる方も、行った事があるという方も多いだろう。

王国で、政体は立憲君主制、元首はプーミポン国王。時々僧とすれ違うほどの仏教国であり、日本人と良く似ている(というか、日本人の祖先のひとつに当たるからと言った方が正しいか?)タイ族が75%住んでいる。

物価は3~5分の1程度だろうか?一週間過ごしても食住合わせて1万円程度あれば十分である。

気候は30~38程度で、日中はヤル気の出なくなるような暑さで、水を常時飲んでいないと熱中症になってしまう。肌に塩を吹くような暑さだ。よって、昼間は日陰で休んで朝夕に活動した方が、効率的な気候だ。乾季、雨季、暑季があり、一番暑いのは4~6月、8~10月はスコールのある雨季である。

### 交通

治安も良く、市街地であれば地下鉄や高架式鉄道(BTS)により安価(10~40バツ、28円~112円程度)で移動ができる。経路が複雑で使い方が難しいが、バスや、タクシー、バイク型タクシーのトゥクトゥク、チャオプラヤー川に運行する渡し舟や水上バスなどがある。また、高速道路は空港から都市まであり、鉄道は他都市とを結んでいる。



1999年12月5日に開通したBTS



水上バス。両岸に乗り場がある。

### 街の歴史

街はまさに玉石混交。宮殿があったかと思うと、広大な広場があり、高層ビル群があり、広大な市場があり、中国人が住む車の解体部品だけを売る工場町があり、線路脇に不法占用だらう、パラックやテント小屋がある。

王が住むチャットラダー宮殿は3600㎡ほどの広大さで、周りを衛兵が守り、鉄道の駅も王専用の駅がある。使われていない王宮、ウィマンメーク宮殿がすぐ隣にあり、

また同様の広さで豪華な宮殿が立ち並んでいるのだが、しばらくは倉庫として使われた後、現在は、王妃の好意で宝物と共に公開されている。



チーク材3階建てのウィマンメーク宮殿。中には財宝が陳列される。

もう少し前の宮殿は、ワットプラケオというバンコク遷都に合わせて建立された寺(タイ式ビルマ式クメール式の塔が立つ)の脇にある。その対岸には、三島由紀夫の「暁の寺」で有名なワットアルンがある。

元々バンコクに遷都されたのは、アユタヤにあった王朝がビルマによって陥落され、移動してきたもので、王宮は川向かい(トンプリー)側にあつたらしい。タークシン王朝が滅んだ後、チャクリー王朝のラーマ1世が中国人の頭領に敷地を譲られ、王宮と寺を築いたものである。



王室寺院、ワットプラケオ



暁の寺、ワットアルン

### 遺跡

となると、行ってみたいなのはアユタヤ遺跡。バンコクから80kmほど北に位置する。バスもあるようだが、私は鉄道で移動した。1時間半程。電車には、金を払わず適当に人が乗り、ドアはなく、入り口ではステップから外に足を投げ出して人がはみ出た状態で電車は走る。着くと運河があり、渡し舟で渡る。(2.8円程)運河には、子供が飛び込んで遊ぶ。そこからは交通機関がないので、トゥクトゥクに値段交渉をして遺跡の真ん中に下ろしてもらおう。観光者相手の象乗りが引切り無しに通る。

宮殿は跡形もない。ビルマ兵が壊したそうだが、聞くところによると、バンコクに遷都する際、材料として使ったとも言う。運河を使い、捕虜を使つてのことらしい。

しかし、寺は残っていた。仏塔が広大な地に、峰のように出る。仏像は、無残なくらい打ち砕かれている。頭だけないものも多い。しかし、巨大な建造物は、存在するだけで圧倒される。それが数え切れないほど建っている。



ワットプララーム



ワットラーチャープラナ

## 街と人

王国の話が中心になってしまったので、今度は一般庶民の生活に話を移す。街にはやはり色々な人が住み、サラリーマンやOLなどは、小綺麗な格好をしており、女性は小柄で黒髪長髪で白いシャツに黒いスカートなのは、日本ではもう見かけなくなった大和撫子風である。オカマがごく普通に派手な格好をして電車に乗っているのは度肝を抜かれる。仏教の国なので、前世が女だったのにたまたま男に生まれてしまったということ片付けられるらしい。

屋台では56円程度で唐辛子のスープに麺が入ったようなものなどが安価で食べれるし、季節柄、ドリアンなどの果物も気軽に買える。そのため、朝ご飯は屋台でという人も多いようだ。船着場などにはそういったちょっとした市が立っている。



船着場近くの市



寺前の露店

同じ市でも、ウィークエンドマーケットや、お祭りとなると、また様子が違う。広島でいう中央公園ほどの大きさとところ狭しと市が並ぶ。値段も格段に安い。最近ではナイトマーケットといって観光客向けのところが出来ているが、こちらは、大きなステージも備えた洗練された市だ。ブースごとに貸し出しされているのだろう、現代芸術のような店が若者を中心に営まれていて、見て歩くだけでも楽しいし、休憩にステージを眺めながらビールや料理をといったことも出来る。



ウィークエンドマーケット



ナイトマーケット

勿論、庶民のお祭りに立つ市もある。高架下にある空間を利用している。売っているものはエタイが知れないし、やはりビール会社によるものだろうか？ステージが用意されているのだが、いうなればド演歌だし、ビールを買うことが出来ない庶民が回りを囲んでいる。



なんだろう？投げ輪かな。



ド演歌が繰り広げられる。

街中や郊外には、やはり貧しい人もかなり多い。そのかわりかなりおおらかなようで、電車は無銭で乗ってもお咎めなしだし、線路脇(時には線路の間!)には、電車の起こす風を狙ってか、夕涼みをする人が多くいた。線路の間やホームで煮炊きを行っていたり、リクライニングの椅子で寝そべっていたり、机を出して夕飯を食べたり団欒をしていたりしていた。家は、線路脇の簡単に作ったバラックやテントのようである。電車が速度を落とすのは、人を轢かないためであるに違いない。電車のステップから足を投げ出して座っていたのだが、蹴倒してしまいそうな距離であった。



線路脇のバラック



水上の家

歴代の王が憧れをもって中国を見ていたせいもあって、王宮などには中国風の置物や、中国の陶器で飾られた塔などがあつたが、今も中国人はタイに根付いている。

しかし、かなり下町で生きているようで、中国人街では、中古自動車の部品をバラ売りする店が多く見られた。店先で電気の道具もないのか金属をノミで砕く姿があつた。

また、朝晩2回、王室賛歌がテレビでさえ流れ、その間は起立不動の姿勢を取る。王室不敬罪もある。なんだか戦時中の日本に来たような錯覚を覚えた。

近くて遠い、似たようで非なる国タイは、なかなか癖のある国だが、また行ってみたいと思う。



初めての道路とそのまち並み



中国系店舗の後ろに摩天楼が聳える。



高速道路から都市を望む

ウォーターフロント。水の都でもある。

(文責：福馬 晶子)

## 今後の活動計画

### 平成17年度第2回幹事会

日時：平成17(2005)年7月30日(土) 13:30～  
(幹事会の後、特別講演会)

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ

### 特別講演会

日時：平成17(2005)年7月30日(土) 15:00～17:00  
(講演1時間、ディスカッション1時間程度)

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ

講師：愛媛大学理事・副学長 柏谷増男氏

主催：広島都市政策研究会との共催

### 総会・発表会あとの「懇親会」の報告

5月28日のアフターの様子をこっそりお見せします。

今回は総会参加者の半数弱、二十数名と小じんまりでしたが、初めての方や遠方からの参加者の自己紹介や、質疑・議論不足のストレス発散の場として大変賑わいました。



行政マン研究発表者は、キャラで話題をさらう！



ほろ酔いS編集長と、見守るO氏、F女史



最後までいた仲間でハイポーズ

もちろん数名はこの後、ミッドナイトの闇のネオンに消えていく。こうした親睦会は研究会、サロンのアフターでも常習化している模様。お気軽にご参加を。(報告：宮迫勇次)

## 編集後記

…空梅雨のミッドナイト、広島市ミッドタウンでの会話。

ママ：へえ、都市計画学会なんていう難しそうなものに入ってるんだ。えらいんだね。

客：えらいことなんかないよ。会費を払えば誰でも会員になれるよ。それに、僕は雑用係だし。

ママ：雑用係って、何してるの。

客：会員向けのニュースレター出したりしてるんだ。会議やセミナーなんかの行事があったら取材して記事にしたり、結構大変だけど、まあ、仲間と楽しみながらやってるって感じかな。

ママ：益々えらいじゃない。本当に誰でも会員になれるの？

客：なれるはずだよ。

ママ：じゃ私でもなれる？

客：特別な資格が必要な訳じゃないし、申し込み用紙に学歴記入欄があったと思うけど、別に大学で都市計画の勉強をしてなくてもいいはずだよ。(注：参照)会員1名が推薦すれば誰でもなれるはずだよ。推薦しようか。判子押すだけだけど。

ママ：でも私が入って何ができるわけでもないしね。都市計画なんて難しいんでしょう。

客：都市計画って、簡単に言えば住みよいまちをつくることから、ある意味ではママなんかその実践者じゃないかなあ。今度、学会の集まりがあったら、みんなで来てみようかな。

ママ：楽しみにしてるわよ～。

客：遠い～夢 捨てきれず～に ふるさ～とを～  
捨てエ～たア～

注)会員種別と資格(学会HPより)

**正会員**:都市計画に関し学識経験を有する個人(大学院博士課程(博士後期課程)在籍者を含む)、都市計画に関する事業を行う法人

**賛助会員**:個人または団体で、本会の目的事業を賛助する者

上記の会員種別と資格によると、ママは賛助会員が。しかし、正会員の「都市計画に関し学識経験を有する個人」とは何を持って判断するかは難しそう。私も賛助会員にされたら、会費が3万円になってしまう。

ミッドタウンのミッドナイトは疲れた私を癒してくれる。そこで働く人は、さびしい私を励ましてくれる。都市計画は、こんなミッドタウンのミッドナイトのためにどんなことができるのだろうか。少なくとも、これまで積極的な貢献はしてこなかった。これからも、都市計画なんか必要とされないのだろうか。しかし、私はミッドタウンのミッドナイトをこれからもこよなく愛し、あわよくば、愛されたいのである。 空梅雨の ネオンにひとり ツインクル

(佐伯達郎)

編集委員：佐伯達郎(編集長)、上之博文、佐藤俊雄、周藤浩司、隅田誠、福馬晶子、宮迫勇次、安永洋一郎、山下和也